
投稿原稿作成要領（2022年4月1日改訂）

投稿原稿は、原則として以下の要領で作成すること。

原稿様式：

- (1) 用紙はA4サイズ（210mm×297mm）、縦長で横書きとする。
- (2) ページ数は原稿の種類に応じて、原則として以下の（ ）内のページ数におさめる。特に、第1次原稿については、そのページ数を超えてはならない。原著論文（12ページ）、展望論文（12ページ）、データ論文（10ページ）、ソフトウェア論文（10ページ）、研究・技術ノート（8ページ）、シンポジウム報告（8ページ）、評論・解説（6ページ）、討論・書評・製品評価（2ページ）。なお、データ論文、ソフトウェア論文において、閲覧・ダウンロードなどに際してパスワードを設定している場合は、審査に必要なので別途通知すること。
- (3) ページレイアウトは、上30mm、下25mm、左右20mmの余白をとる。
- (4) 段組は2段組とし、段間を10mmとる。
- (5) 本文中の文字の大きさは、10~11ポイントとする。
- (6) 文字数は1行あたり22~23文字とし、40行（英文の場合は46行）とする。なお、審査を効率的に行うため、審査される原稿については、右欄外に行番号（1, 5, 10, 15, …）を記入すること（付図およびテンプレートを参照）。

記載事項：

- (1) 題名は和文と英文を記入すること。
- (2) 著者名・所属機関名は和文と英文で記入する。共著の場合、和文ではナカグロ（・）を、英文ではカンマ（,）を区切りに用い、著者名を併記する。英文著者名は、名（ミドルネーム）、姓の順で表記する。なお、第一ページのフッターとして、第1著者について所属機関名、連絡先を、第2著者以下については所属のみを記入することを原則とする。ただし、第1著者が学生等で近い将来、現在の所属機関からの移動があらかじめわかっている場合には、連絡先を記入するのは第1著者以外でもよい。
- (3) Abstractは、英文で8~10行以内に収まるようにする。
- (4) Keywordsは3~5語とし、各語とも日本語の後に括弧内に入れて英語（慣用的に先頭文字を大文字にしている語を除き、小文字表記とする）を併記すること。
- (5) 本文については、章分けをする場合、1. はじめに、…、N. おわりに、謝辞。参考文献のようにすること。各章の間は1行程度のスペースを入れて、読みやすくすること。なお、

項をたてる場合には，1.1，1.2，…のようにし，さらに分ける場合には，1.1.1，1.1.2，…のようにする。

(6) 本文の句読点には，ピリオド (.) とカンマ (,) を使用すること。

(7) 注は，原則として設けないこと。もし付ける場合は，本文中の当該箇所の右肩括弧付きで通し番号を付し，謝辞と参考文献の間にまとめて，番号を付して注の内容を記す。

(8) 図・表については適切な場所に配置すること。図のタイトルは，図と切り離して図の下に記入する。表の番号とタイトルは，表と切り離して，表の上に記入する。図表の番号はそれぞれ論文中の通し番号とする。白黒印刷される図については，その図がオンラインファイル中でカラー表示される場合であっても，白黒印刷された図から主たる情報を判読できるようにした上で，図タイトルおよび本文中で図中の色に一切言及しないこと。なお，オンラインファイル中でカラー表示される図のうち，白黒印刷される見込みがある図については，投稿原稿中に，その図をカラー表示したものに加えて白黒印刷したものも付すこと。白黒印刷はグレースケールでの印刷と異なるので注意すること。

・ 図タイトルまたは本文中での記述について認められない例

〔認められない記述例〕 図中，青で示した地点は鉄道駅を示し，赤で示した領域は大学キャンパスを示している。

(9) 参考文献の記載の仕方

・ 全体的な留意点

1) 本文中で引用したもののみをあげること。

2) 和洋文献が混在している場合は，和文献を先にまとめ，著者名の五十音順に並べる。次に洋文献を同じく，著者名（姓が先）のアルファベット順に並べる。中国語・韓国（朝鮮）語文献の場合は，それぞれ著者名の当該言語に固有の配列順に並べて和文献と洋文献の間に挿入する。同一著者の文献は発表年の順に並べ，同一年次に複数ある場合は，引用した順に発表年の後にアルファベットを付けて区別する。カンマ (,) の後は半角のスペースを置く。各文献の最後はピリオド (.) でとじる。

3) 著者・编者・訳者の名前は，和文献の場合には姓名を記入する。洋文献の場合には，姓 (Family name) の後にカンマをいれて半角スペースを入れ，次に First name の頭文字 1 字 (大文字) を記入しピリオド (.) でとじる。Middle name がある場合はその後に頭文字の 1 字 (大文字) を記入し，ピリオド (.) でとじる。(例：Kennedy, J.F.)

4) 出版していない文献や出版予定の文献は，和文献の場合には，未刊や出版予定とし，洋文献の場合には unpublished や forthcoming などを書籍名の後に括弧内に入れて表記する。

・ 和雑誌の一部である場合：

著者名（出版年）文献名。「雑誌名」，巻（号），頁。

〔例〕東明佐久良・佐藤裕人・小坪宏則（1994）携帯型地理情報システムの開発。「GIS—理論と応用」，**3**（1），1-8.

※ 巻数は太字にし，巻ごとに通し頁がある場合は号数を省略できる。

・和単行本の一部の場合：

著者名（出版年）文献名。『書名』（編者名），出版社，引用頁。

〔例〕福井弘道（1996）GIS を用いた都市・地域の解析。『GIS ソースブック』（高阪宏行・岡部篤行編），古今書院，336-345.

・和単行本の場合：

著者または編者名（出版年）『書名』，出版社。

〔例〕矢野桂司（1999）『地理情報システムの世界—GIS で何ができるか—』，ニュートンプレス。

・博士論文，修士論文の場合：

著者名（提出年）論文タイトル。修士（博士）論文，**大学大学院**研究科**専攻。

〔例〕浅見泰司（1984）都市内人口・施設の分布及び立地分析。修士論文，東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻。

Asami, Y. (1987) Game-Theoretic Approaches to Bid Rent. Ph.D.dissertation, Department of Regional Science, University of Pennsylvania.

・洋書の邦訳の場合：

和文著者名，訳者名（出版年）『書名』，出版社。〔欧文著者名（出版年）書名。出版地：出版社。〕

〔例〕マギー，D.J.・グッドチャイルド，M.F.・ラインド，D.W.編，小方 登・小長谷一之・碓井照子・酒井高正訳（1998）『GIS 原典—地理情報システムの原理と方法—』，古今書院。Maguire, D.J., Goodchild, M.F. and Rhind, D.W. eds. (1990) *Geographical Information Systems: Principles and Applications*. London: Longman.

※ 訳書の原典は省略可能である。洋書の原典の書名は斜体にする（以下同様）。

・洋雑誌の表記：

著者名（出版年）文献名. 雑誌名, 巻（号）, 頁.

〔例〕 Goodchild, M.F. (1992) Geographical information science. *International Journal of Geographical Information Systems*, 6, 31-45.

※ 文献名は最初の単語の先頭文字のみを大文字にする, 雑誌名は各単語の先頭文字（助詞を除く）を大文字とし, 全体を斜体にする. 巻数は太字にし, 巻ごとに通し頁がある場合は号数を省略できる.

・洋単行本の一部の場合：

著者名（発行年）文献名. In 編者名 ed(s). 書名. 出版地: 出版社, 引用頁.

〔例〕 Openshaw, S. (1996) Developing GIS-relevant zone-based spatial analysis methods. In Longley, P. and Batty, M. eds. *Spatial Analysis: Modeling in a GIS Environment*, New York: John Wiley & Sons, 55–73.

・洋単行本の場合：

著者または編者名（発行年）書名. 出版地: 出版社.

〔例〕 Pickles, J. ed. (1995) *Ground Truth: The Social Implications of Geographic Information Systems*. New York: Guilford Press.

・インターネットのホームページの場合：

著者名（発行年）文献名. <URL>.

〔例〕 建設省国土地理院 (1999) 国土空間データ基盤標準及び整備計画. <<http://www.gsi-mc.go.jp/REPORT/GIS-ISO/LOGIS/gaiyou.htm>>.

※ 発行年はホームページが作成された年を表す. もしそれが不明な場合は, その文献を参考文献リストには含めず, 本文または注で適宜記載する.

(10) 本文中に参考文献を引用または注として記述する場合は下記のように表記する.

・引用する場合：〔例〕 …高阪（1994）によると…

・注として記入する場合：〔例〕 …と証明されている（Wrigley et al., 1996）.

・1カ所で同一著者の文献を複数引用する場合：〔例〕 …である（村山・尾野, 1993, 1996）

・1カ所で複数の著者の文献を引用する場合：〔例〕 …という見方もある（伊理, 1998; 岡部

ほか, 2000).

・本文中で、書名、資料名、データ名などを引用する場合：〔例〕・・・国土地理院の『数値地図 25000 (空間データ基盤)』を利用した。

※上記に示したとおり、著者が3名以上の場合は筆頭著者の姓の後に「ほか」(欧文の場合は「et al.」)を付すこと。

※自著の文献を引用する場合でも「拙稿」とは書かずに、〔例〕・・・玉川(2003)によれば・・・, といったように客観的に記述すること。

投稿方法

投稿原稿は、本要領および原稿テンプレート（Word ファイル）に従って作成すること。第1次原稿では、著者の判明につながる情報（著者名、所属および所属が明確になるような付記・謝辞）を削除すること（文字をマスクする方法による秘匿ではなく、著者の特定に関する文字自体を記述しないこと）。

原著論文，展望論文，データ論文，ソフトウェア論文，研究・技術ノートの投稿は，論文投稿審査システム EditorialManager (<http://www.editorialmanager.com/TA-GIS/>) を介して行うこと。

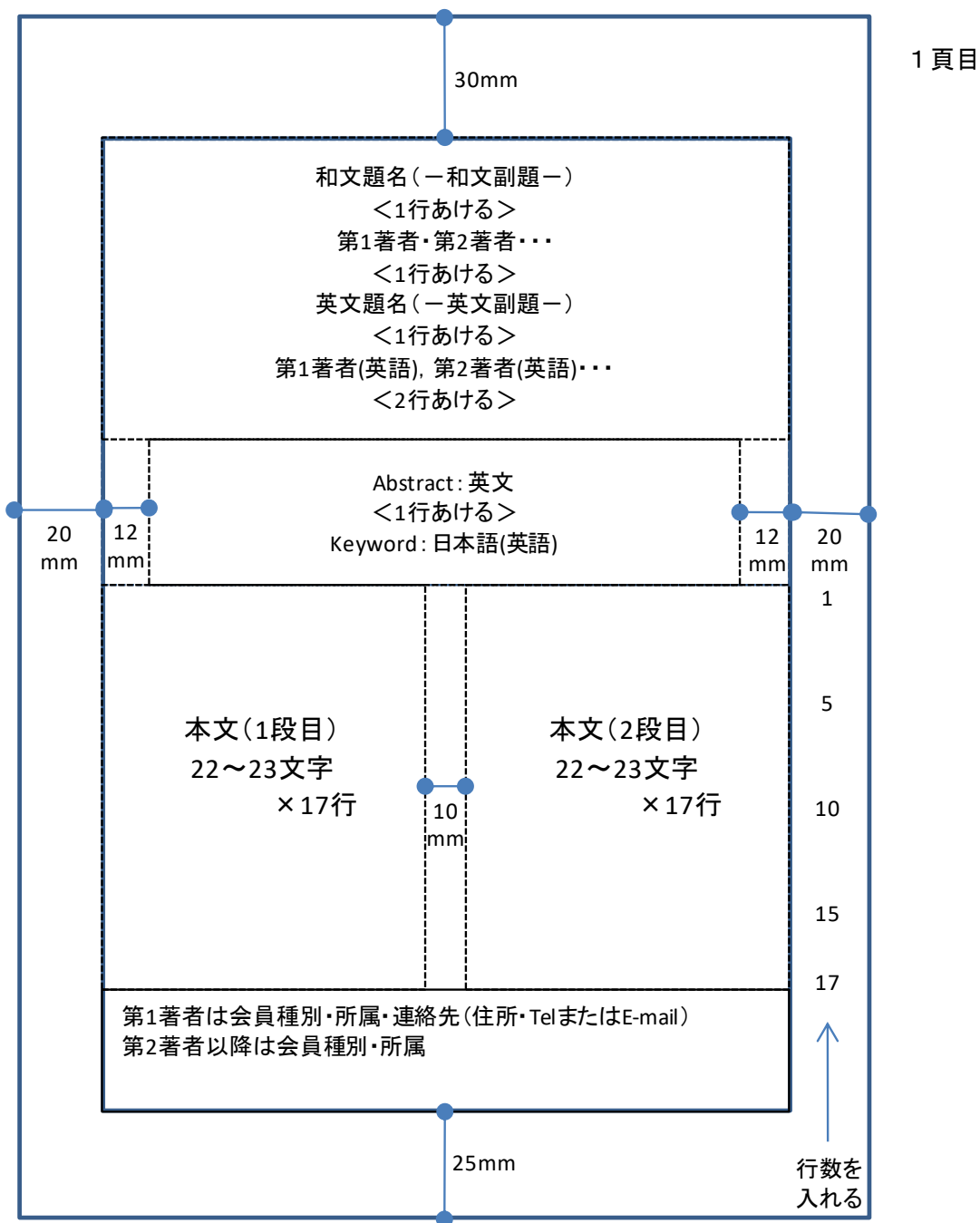
シンポジウム報告，評論・解説，討論・書評・製品評価，学会記事の投稿の際は，事前に学会事務局へ投稿希望の旨を連絡すること。その上で，学会事務局に e-mail の添付ファイルで原稿を送付すること。その際のメールタイトルは、『氏名・<原稿種類名>投稿』に統一する（例えば、『日本太郎・<解説>投稿』にする）。

なお，原則として提出物は返却されない。

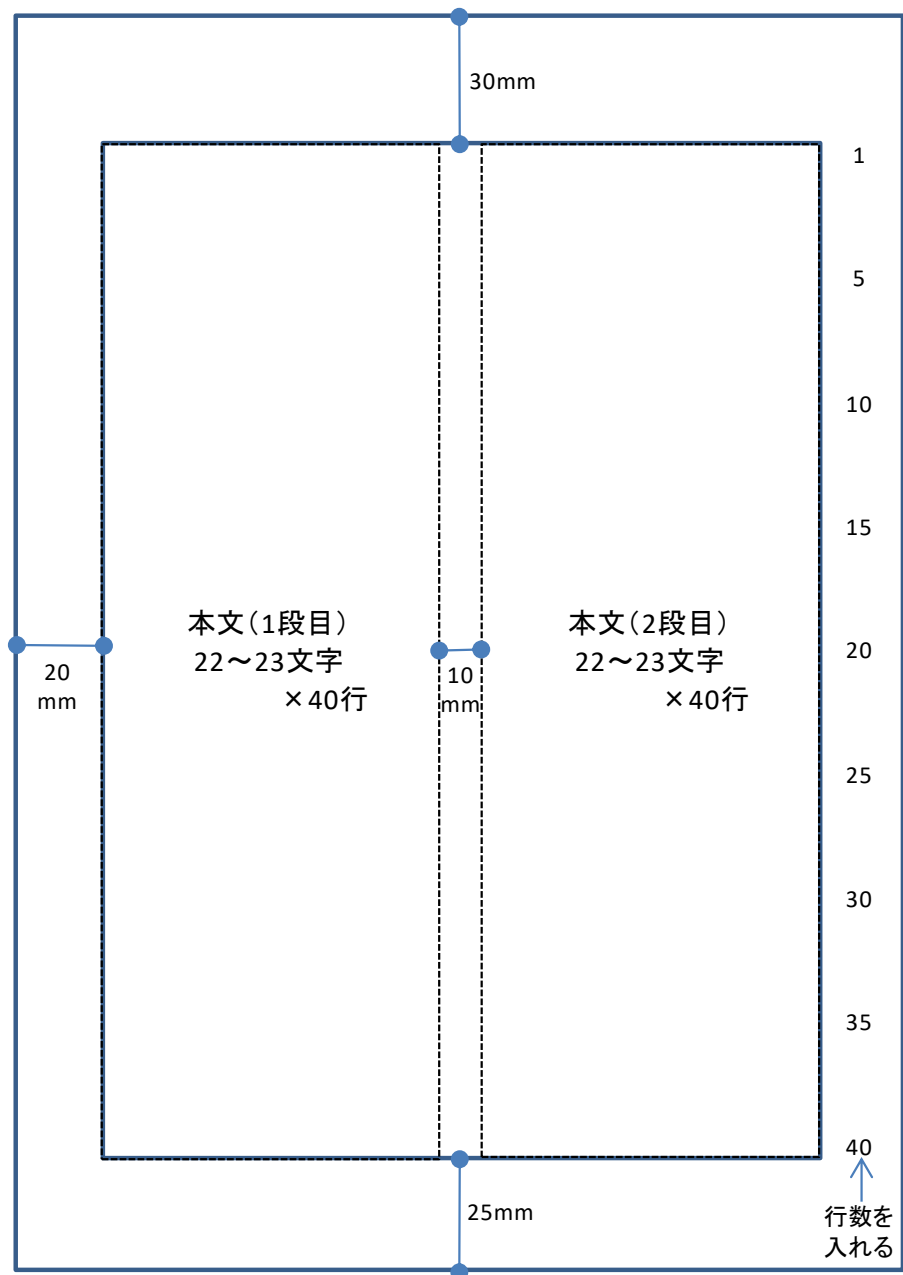
また，原稿が採用となった場合には，著作権譲渡契約書を事務局に提出すること。カラー印刷は有料であり，ページ数に応じて著者が負担すること。カラー印刷の図は必要最小限の数に留めること。

電子ファイル作成上の注意点：

Windows や Macintosh のいずれを使用してもよいが、原則として Word ファイルもしくは PDF ファイルを作成すること（ただし、最終稿では Word 形式で提出すること）。グラフィックファイル（図、表）は、上記ファイルに埋め込むこと。ただし、図表が不鮮明な場合には、その元データ（JPEG 形式）も用意すること。



2 頁目以降



- 題名と著者名の間は1行あける.
- 和名著者と英文の題目の間は1行あける.
- 英名著者と Abstract の間は2行あける.
- Abstract と Keywords の間は1行あける.
- Keywords と本文の間は2行あける.